

黒澤映画が好きな人と嫌いな人

大石和久

黒澤明の映画は「ただの娯楽映画ではない」とよく言われる。そこが好きな人は黒澤映画は「奥深い」と誉め称え、嫌いな人は「説教臭い」と非難する。たとえば映画に疎い人でも一度はタイトルを耳にしたことがあるだろう黒澤の『七人の侍』は、その点が好きな人に言わせると「世界映画史上、空前絶後の大傑作」であり[井上ひさし]、嫌いな人に言わせると「どうもヒネクレて」いて、「全体的に教条的」であり、「うさんくさい」のである[井筒和幸]。ここで、黒澤映画が「ただの娯楽映画ではない」とされる点がよく表れているこの映画のラストシーンを取り上げよう。この映画は、戦国時代、野武士に襲われそうな村があって、その野武士を追い払うために村の農民たちが侍を七人雇うというストーリーなのだが、侍たちが野武士を壊滅させる過激なアクションシーン(粘り着くような雨が印象的だ)の後、映画のラストシーンで侍の頭がこう呟く。「勝ったのはわしらではない。あの百姓どもだ」と。かれは侍の存在理由を問い、そしてこの〈問い〉の思索へと深く沈潜する。侍という存在はもはや完全に実体を失ったかのようだ。なぜなら、侍たちは主人のためではなく、哀れな農民たちのために命を賭して闘ったのだが(しかも報酬は白い米のみ)、一方農民たちはと言えば、侍たちをいわば利用した挙句、野武士たちが全滅したら、侍たちに対して感謝の念さえも示さず、全くの知らん顔なのだから。どこにも(主人側にも、農民側にも)居場所のない者("nowhere man")、その意味で自らの存在理由を失ってしまった侍。真の勝利者は百姓なのだ。このような〈問い〉を巡って黒澤映画に対する評価が、これは単なるアクション映画ではなかった、「深い」と感動するのか、あるいは、勝ったなら素

直に喜ばばいいではないか、黒澤は貧民の立場を真には理解できない「プチブル」にすぎないと切り捨てるのかの、どちらかに極端に分かれてしまうのである。

が、ここで第三の男が現れる。かれはこう言う。「確かに黒澤はプチブル的で、空っぽなヒューマニズムを振りかざすが、重要な点はそこにはない。それは〈問い〉の中身に関することだけでしかない。人物がアクションを超えて、〈問い〉へと身を引き裂かれることそのこと自体が重要なのであって、そこに黒澤映画の単なるアクション映画とは異なる特異性、そして強烈さがあるのだ」と。かれの名はフランスの哲学者ジル・ドゥルーズ。過激なアクションの末勝ち取った勝利さえも凌駕してしまうような、強烈な〈問い〉の呼びかけに侍の頭は戦慄する。かれはこの〈問い〉に導かれるようにして、アクションの主体たる身体を超えてゆき、ひたすら自らの魂の配慮へと、また死んで逝った仲間たちの鎮魂へと向かう。ドゥルーズの意見は確かに折衷的なのだが、黒澤映画がそのテーマ自体——多くの批判にさらされている——に還元されることなく、映画そのものとして持っている強烈さを解き明かしているように思う。この映画を観る者は、どのような〈問い〉であろうと、アクションを凌駕する強烈な〈問い〉へと身を引き裂かれゆく侍の存在それ自体に心を激しく揺さ振られるのである。

(おおいし かずひさ/人文学部講師)

図書館に所蔵されている黒澤明を知るための本

黒澤 明	全集黒澤明全6巻	912.7/Ku 76
堀川弘通	評伝黒澤明	778.21/HOR
黒澤 明	黒澤明作品集	726.5/Ku 79

- p.1. 黒澤映画が好きな人と嫌いな人 ■ p.2-3. 図書館レポート
 ■ p.4. 刑法学あれこれ① ■ p.5. 韓国を知るための本① ■ p.6-7. 本学図書展示会の歩み
 ■ p.8. 「ハンデル」と「韓国語」

図書館レポート

【図書館の蔵書冊数】

図書館には、いったいどのくらいの蔵書があるのでしょうか？

2001年3月31日現在の蔵書冊数は、

	和書	洋書	合計
蔵書冊数	497,260	165,074	662,334

10年前（1991年3月31日現在）の蔵書冊数を見てみると431,115冊でした。

この10年間で、じつに231,219冊の図書が増加しております。増加率にしますと、34.9%の伸びになります。ちなみに昨年1年間の受入図書の冊数は29,508冊でした。

皆さんがいつも利用している、図書館の2・3階には、およそ78,000冊の図書が収められています。皆さんは、図書館に所蔵している図書のうちの約12%しか目にしていないのです。残りの58万冊という膨大な図書は、閉架図書に収められていたり、先生の研究室に貸出されています。

【西暦2000年度 統計ファイル】

1999年秋に、北海学園大学図書館も電算化したしました。

実質、電算化元年となった西暦2000年度を数字で振り返ってみました。

	2000年度	ちなみに1999年度は、
入館者数	430,000人（1日あたり 1,473人）	377,282人
貸出者数	延べ 25,798人（うち学生 22,338人）	9,255人（うち学生 7,248人）
学生一人当りの貸出回数	3.5回	3.1回
貸出冊数	47,781冊（うち学生 40,309冊）	25,384冊（うち学生 14,929冊）
学生一人当りの貸出冊数	5.4冊	2.7冊
PCブース利用者数	延べ 979人	—
AVブース利用者数	延べ 306人	—

近年、図書館の利用状況は、皆さんに利用しやすくする為に大きく変化しております。図書館の開館時間を延長し午後10時の閉館としたことや、エレベーターによる入退館を可能にしました。図書の貸出冊数も従来の3冊から5冊に変更し、1

年間の総貸出冊数が飛躍的に伸びています。また、3階にはPCブースも設置され、インターネット検索など幅広く使用されており、新たな利用者も増えています。

〔レファレンス関係統計 一 所蔵調査及び館外貸出〕

〔学内での調査〕

	教職員	学生	合計
文献所蔵調査	295	369	664
事項調査	13	38	51

〔学外に調査依頼・学外から調査依頼〕

複写業務

	国内向け	国外向け	合計
学外に依頼	385	8	393
学外から依頼	164	0	164

貸借業務

	国内向け	国外向け	合計
学外に依頼	156	10	166
学外から依頼	43	0	43

文献所蔵調査

	国内向け	国外向け	合計
学外に依頼	47	0	47
学外から依頼	25	0	25

〔図書館からのお願い〕

去る5月21日午後3時ごろ、図書館において一つの事件がありました。水道管を破損され、大量の水が3階閲覧室に溢れ出したのです。水は瞬間に、3階の大部分の床を浸水し、さらに2階閲覧室にも水漏れするという前代未聞の出来事となりました。原因を調べると、3階男子トイレの水道管が何者かによって壊されていることが判りました。一部マナーの悪い利用者のささいな行動が起こした出来事でした。

溢れた水によって、2・3階の一部図書が水浸

しになり、また、閲覧室の利用が一部出来なくなるなど、多くの利用者に迷惑をかける結果となりました。

このような例は稀ですが、このほかにも最近マナーの悪い利用者が目立ちます。特に携帯電話で大声で話しをしている学生や、飲食禁止なのにジュース類を飲む人が後を絶ちません。また、トイレ内で喫煙している人もいます。利用者全員が快適に利用できる図書館にするよう最低限のマナーは守りましょう。

―― 図書選定委員（〇は図書委員） ――

経済学部 ○伊藤 友章 佐藤 卓司 小池 直子 人文学部 ○徳永 良次
須田 一弘 宝利 尚一
法学部 ○織田有基子 伊藤 知義 横山 純一 工学部 ○吉田 文夫

刑 法 学 あ れ こ れ

1

学 術 交 流

吉 田 敏 雄

旧刑法（明治13年公布、同15年施行）はフランス刑法を範としたものだったが、現行刑法（明治40年公布、同41年施行）はドイツ刑法の強い影響の下に制定された。大日本帝国憲法（明治22年公布、同23年施行）は、プロイセンの立憲君主制に範をとって制定された。この時期、その他の基本的法律はすべてドイツ法を継受したものだ。かくして、第二次世界大戦終了時まで、日本の法律学（者）はドイツの法律学（者）に「教えを乞う」立場にあった。

しかし戦後、とりわけここ2、30年の間に、それまでのいわば「一方通行」から「双方通行」への変化がみられる⁽¹⁾。1976年に、ケルン大学教授を編集委員とする叢書「日本法」の刊行が開始され、刑事法関係では、Bindzus, D. u. Ishii, A., *Strafvollzug in Japan*, 1977 及び Nakayama, K. u. a., *Strafrechtliche und strafprozessuale Fragen aus dem japanischen Recht*, 1982 がある。1975年には、フライブルク大学教授を編集委員とする叢書「日本における法」も刊行を開始した。1988年には、ハンブルクでドイツ・日本法律家協会が設立され、1996年に、本協会により *Zeitschrift für Japanisches Recht*（日本法雑誌）が発刊された。さらに、フライブルク大学、マールブルク大学、ベルリン自由大学、トリアー大学、ミュンヘン大学、そして放送大学（ハーゲン）等では、日本法講義も開設されている。

筆者も刑法学の「相互」交流に微力ながら尽くしてきた。筆者の参加した学会名、開催年・場所、発表課題を以下に列挙する。第2回ドイツ・日本刑法コロキウム（1994年、東京）、*Ausländerkriminalität in Japan*（日本の外国人犯罪⁽²⁾）。第3回ドイツ・日本刑法コロキウム（1997年、トリアー）、*Veränderte Bedingungen des Resozialisierungsversuchs im Kontext internationaler Kriminalität in Japan*（日本における外国人犯罪

者の再社会化条件の変容⁽³⁾）。

ドイツ刑法学は今日でも韓国、台湾、中国に強い影響力があり、1993年に東京で、これらの国からの刑事法学者の参加した東アジア・ドイツ刑法コロキウムが開かれ、筆者は *Die Einwilligung des Verletzten im japanischen Strafrecht*（日本刑法における被害者の同意⁽⁴⁾）を報告した。ドイツ刑法学は、東ヨーロッパ、スペイン、イタリアにも影響を与えており、1999年に大阪で、第2回ドイツ・ポーランド・日本刑法コロキウムが開かれ、筆者は *Der japanische strafrechtliche Schuld begriff von gestern, heute und morgen*（日本刑法の責任概念—過去、現在そして未来⁽⁵⁾）を報告した。

「双方向」学術交流とはいうものの、言語障壁もあり、一気には進捗しない。それでも日本からドイツへの流れは太くなりつつあるといえよう。ドイツ語の国際的通用性には昔日の面影はないのであるが、しかし刑法学の分野では、ドイツ語は依然として健在である。

- (1) Murakami, J., *Vom Gegenverkehr zum Dialog - am Beispiel der Rechtswissenschaft*, in: DAAD, *Blaue Blätter* 5, 2000, S. 23ff.
- (2) Kühne u. Miyazawa (Hrsg.), *Neue Strafrechtsentwicklungen im deutsch-japanischen Vergleich*, 1995.
- (3) Kühne u. Miyazawa (Hrsg.), *Alte Strafrechtsstrukturen und neue gesellschaftliche Herausforderungen in Japan und Deutschland*, 2000.
- (4) Eser u. Nishihara (Hrsg.), *Rechtfertigung und Entschuldigung IV*, 1995.
- (5) Eser u. Yamanaka (Hrsg.), *Einflüsse deutschen Strafrechts auf Polen und Japan*, 2001.

（よしだ としお／法学部教授）

韓国を知るための本

1 紀行

水野邦彦

“韓国もの”の本がつぎつぎに刊行され、書店でも目をひくように並べられているが、よく見るとキワモノ的な本が何と多いことか。なかには食い道楽と買い物ばかりを助長する文庫本まである。私たち日本人が決定的に韓国についての知見に欠けている現状をおもえば、その種のキワモノ本を手にとった人が、なるほど韓国というのは服が安く買える国か、などと思いこんでしまう可能性は高いといわざるをえない。そうであれば私たち日本人はいつまでたっても韓国の人々とちゃんとつきあうことができないだろう。

このほど4回にわたって韓国にかんする記事を書かせていただくことになった。そこで、いままで韓国のことをまともに知ろうとしなかった私たち日本人が韓国と韓国人について知見を深めるのに有益な書籍、とくに本図書館に所蔵されている書籍を、「紀行」「歴史」「社会」などを主題として紹介してゆきたい。

さて韓国を訪れる日本人は年々ふえているが、日程的余裕があれば、行程を旅行社まかせにするのではなく、自分で韓国の旅を組み立てたいものである。そのさい役立ちそうな本を4点あげよう。

- ①小林慶二ほか『新装版 観光コースでない韓国』高文研、2000年 [292.1/KOB]
- ②鄭雲鉉『ソウルに刻まれた日本』桐書房、1999年 [開発 221.06/C 53]
- ③中村欽哉『ソウル：日帝下の遺跡を歩く』つげ書房新社、1998年 [221.06/N 37]
- ④神谷丹路『韓国：近い昔の旅』凱風社、1994年 [302.21/Ka39]

これらの本には写真や地図がもりこまれていて、視覚的に訴えかけるものがある。とりわけ②には写真が多い。①は、韓国の歴史や社会を専門的に研究しているわけではない新聞記者が、韓国のあちこちを見てまわりながら勉強してゆくという構成の本で、かつて私もだいふ利用させても



撮影：北口 一真

らった。なかでも、ソウルのタプコル公園（パゴダ公園）に設置されている三一運動の様子を再現した10枚の浮き彫りすべての写真が載っているところ、独立記念館に展示されているロウ人形の写真がかなり多く載っているところがよい。②は韓国人新聞記者によるソウル市内の歴史的痕跡探訪記で、欄外にその地の写真や歴史用語の解説が掲載されている。この本には、1998年より旧獄舎のなかが見学できるようになった西大門刑務所にかんする案内もある。④は、著者の韓国留学時の経験と1990年代の経験とをともに書かれた本で、このなかではいちばん読みものの色彩がこい。当然といえばいえるのだが、4冊とも日帝による韓国侵掠の痕跡が強調されている。これらの本は本格的に歴史を叙述したものではないが、私たち日本人は少なくともこれぐらいのことは知っておくべきと思われる。

なお上の写真は、今春のゼミ旅行で慶州を訪れたとき「ちょむそんで」の前で撮ったものである。歴史を学びながらも楽しく韓国を旅したいものである。

(みずの く に ひ こ / 経済学部教授)

本学図書展示会の歩み

昭和62年4月、現図書館が新築開館し、同年10月6～7日、本学を会場として第36回日本図書館学会研究大会及び臨時総会が開催されました。その際に、記念事業として第1回「北海道関係古文書展示会～北駕文庫所蔵～」(昭和63年9月8日～/展示目録B5 6p.)を催したのが本学図書展示会の始まりとなりました。この第1回展示会では、北駕文庫(明治時代以前の古文書の文庫(31,000冊所蔵))の図書の内、松浦武四郎著作等の北海道関係古文書35点を展示公開し、解説目録を配布しました。

そのときの図書館だよりの記事を紹介すると、「北駕文庫初御目見得—これら古文書の時代を経ても薄れぬ鮮やかな色彩や、古式ゆかしい墨跡の妙は、見る人の心を引き付けて止まないものがあります。レトロブームの昨今、古文書の美術的・歴史的価値に触れると共に、内容にも興味が沸いてくるのではないのでしょうか。これを機に図書館では、特色ある常設展示場を目指したいと思います。」とあり、その後、今日まで北駕文庫と図書館の本を各回の異なるテーマの下に紹介してまいりました。次は、第1回～32回までの開催テーマ一覧です。

第1回～32回開催テーマ一覧

- 第1回：「北海道関係古文書展示会～北駕文庫所蔵～」昭和63年9月8日～/展示目録 B5 6p.(当展示会は、本学における日本図書館学会開催を記念して始めた。) ○北駕文庫所蔵の松浦武四郎著作等の北海道関係古文書35点の展示と解説目録の配布。
- 第2回：「昭和24～63年；学園大出版物40年に見るキャンパス・グラフィティ」昭和63年10月 ○研究紀要・学園、大学、学生出版物
- 第3回：「スニーカー気分で地球を歩こう展～国際情報いろいろ～」平成1年1月～ ○国際交流/国際情報/各国情報源/留学資料
- 第4回：「僕の快適大学生生活術展」平成1年3月～ ○学生生活ガイド・生活/就職情報誌
- 第5回：「近代文学絵巻～漫画と雑誌で綴る明治・大正・昭和～」平成1年6月～ ○芭蕉300年/とんやれ節/漱石・藤村・直哉原稿(復刻)/夢二と少女雑誌/賢治/佐藤春夫・実篤・里見の寄書/多喜二/昭和20年代創刊雑誌一般/戦後の主要文学賞/主要文学誌一覧
- 第6回：「教科書のあゆみ展～教育史にみる日本教育史～」平成1年9月～/展示目録 B4 1p.
- 寺子屋の教科書/文明開化の教科書/明治10年代/教科書検定小史/～明治36年～国定教科書時代/昭和10年代～戦時教科書時代/昭和20年～終戦の教科書/戦後の教科書
- 第7回：「ブックデザインは時空に輝く！～古今東西ブックデザイン展」平成1年12月～
- 世界の先端ブックデザイン/美しい本：金・銀・宝石・革・織物・和紙装本/おもしろい本：とびだす本・ホログラフィックな本/先端印刷技術・18～19cの西洋近世のブックデザイン/江戸のブックデザイン
- 第8回：「雑誌創刊号展～日本の雑誌創刊号100種～」平成2年4月～/展示目録 B4 1p.
- 第9回：「北海道の植物展(1)～佐藤謙先生コレクションより～」平成2年6月～ ○北海道の森林と高山の代表的な植物の標本を展示/落葉広葉樹林・針葉樹林・高山植物
- 第10回：「世界の絵本展～14カ国の絵本を展示～小池直子先生コレクションより～」平成2年9月～/展示目録 B4 1p.
- 第11回：「北海道の植物展(2)～佐藤謙先生コレクションより～」平成2年6月～ ○大雪山等道内各地の植物の標本を展示/高山植生・湿原植生・砂丘植生・噴気孔の植生
- 第12回：「出版ジャーナリズムのルーツを探る～18～19cヨーロッパ雑誌出版史展～」平成2年10月～ ○英国、ジェントルマンズ・マガジン 1731～1907 etc.本学所蔵外国雑誌から古い刊行年順に紹介(50誌)

- 第13回：「出版・造本技術展～編集から印刷・製本まで～」平成3年1月～ ○出版編集とは／「図書館だより」の編集過程／レイアウト／電算写植から印刷へ～写真パネル展示～／カラー画像処理システム／北海学園大学経済学論集ができるまで／本造りの技術／製本のしかたと道具・材料／本の解剖学／構造と形態
- 第14回：「『漂流』大黒屋光太夫と松浦武四郎『同時代』展」平成3年7月～／展示目録 B 5 7p. ○幕末・鎖国下の海外情報と蝦夷地探検／松浦武四郎他探検家たちの著作・漂流記と海外事情記／大黒屋光太夫関係文書
- 第15回：「北海道・マサチューセッツ州姉妹提携記念「北・マ交流史展」平成3年11月～ ○北海道・マサチューセッツ州交流史／マサチューセッツ州出身著名人の著作／北海道と日本に関する英文書誌／展示目録 B 5 5p.
- 第16回：「『スペインの本』展示会～コロンブス／アメリカ大陸発見 500周年からバルセロナ五輪まで～」平成4年5月～／展示目録 B 4 3p. ○スペイン史／紀行／美術／文学
- 第17回：「北駕文庫所蔵 国文学・漢籍貴重書展～1992年度 和漢比較文学会開催記念～」平成4年9月～／展示目録 1p.
- 第18回：「外国人の見た日本展～不滅の『日本学』研究書～」平成5年4月～／展示目録 B 5 5p. (人文学部開設記念)
- 第19回：「日本法史展～古代法から江戸は大岡裁きの世界、明治は近代法の誕生まで～(本学、北駕文庫所蔵古文書より)」平成5年11月～／展示目録 B 4 5p.
- 第20回：「古文書でみる日本経済思想 400年史(江戸時代～現在)」展～(本学、北駕文庫所蔵古文書より)／展示目録 B 4 5p.
- 江戸時代の経済概念／江戸時代の重要経済書：熊沢萬山「集義和書(1676)」／宮沢安貞「農業全書(1697)」／～維新後の西洋経済思想の移入：スマイルズ「西国立志編」／日本近代経済学の成立～リスト「李氏経済論」／山崎覚次郎「経済原論」
- 第21回：「日本列島自然災害」展～地震と噴火の本～ 平成7年4月～／展示目録 B 4 2p. ○日本の自然災害に関する所蔵図書を刊行年順に展示／1703(元禄16)元禄十六年地震火災写本 北駕文庫 科学136／1791(寛政3)訓蒙
- 天地弁 北駕文庫 科学142／1847(弘化4)信州大地震御届書 北駕文庫 科学87／1856(安政3)地震予防説 宇田川興斎 風雲堂 北駕文庫 科学59
- 第22回：「仏教・神道」展～(本学、北駕文庫所蔵古文書より41冊を展示)平成7年9月～／展示目録 B 4 2p. ○融通大念佛本縁起 1691(元禄4)／一七憲法和解／黒谷 法然上人一代記 1666(寛文6)／梵語千字文 1773(安永2)
- 第23回：「秀吉」展～(本学、北駕文庫所蔵古文書より)平成8年3月～／展示目録 B 4 1p.
- 第24回：「『宮沢賢治100年・石川啄木110年』展～岩手・同時代の詩人たち～」平成8年7月～ ○宮沢賢治の本～絵本：銀河鉄道の夜・注文の多い料理店・春と修羅／石川啄木の本～一握の砂・悲しきがん具・歌集・啄木と札幌
- 第25回：「古辞書展～元時代の漢字辞書から明治時代の英和辞典まで～」平成8年12月～ ○成立年順に展示～1351 六書正譌(りくしょせいか：復刻版)／1575 本朝事始／1617 和名類聚鈔(わみょうるいしゅうしょう)／1680 節用集大全
- 第26回：「毛利元就と長州維新展～山口県人の系譜」平成9年3月～／展示目録 B 4 1p. ○毛利元就自筆書状(復刻)／毛利記／大内書状／吉川系譜／厳島の戦い・宮島
- 第27回：「北海中学の青春群像～北中・札商著名卒業生14人にみる北中精神の研究」平成9年8月～ ○南部忠平氏／若松勉氏／本郷新氏／寒川光太郎氏／和田芳恵氏／子母沢寛氏／島木健作氏／野呂栄太郎／沢田誠一／坊屋三郎／早坂文雄
- 第28回：「外国人が見た幕末・維新展」平成10年6月～ ○開国～黒船来航：ペリー／ハリス／徳川慶喜／モース／シーボルト／オランダ商館／ケンペル／漂流記／外国人がとった幕末・維新・明治期の写真
- 第29回：「忠臣蔵」展 平成11年6月～
- 第30回：「江戸・明治期のスポーツと音楽・娯楽展」平成12年8月～
- 第31回：「古地図展～世界古地図の中の日本と江戸街図／大正～昭和期・札幌市街図の変遷～」平成13年1月16日～
- 第32回：「大相撲」展 平成13年4月27日～6月20日 以上

「ハングル」と「韓国語」

李 英 愛

最近、日本では「シュリ」「JSA (Joint Security Area: 共同警備区域)」といった映画や「唐辛子」「味付け海苔」といった食べ物を中心に韓国ブームが広がり、韓国へ足を運ぶ日本人観光客の数が年々急増している。このシリーズでは、韓国文化の一つとして、世界で唯一創始者がわかっている言葉といわれている韓国語について4回にわたって紹介したい。

「ハングル」は、朝鮮王朝時代の4代目の王様である世宗大王が、当時の経書・典故・進講などを司った機関であった集賢殿の学者たちとともに創った文字である。15世紀(1443年創始、1446年公表)に創られ、約550年の歴史を持っている「ハングル」は、「偉大なる文字」を意味する。「ハングル」が創始される以前は、中国漢字の音と意を交ぜて表記する「吏読」文字が使われていたが、一般百姓には漢字を使うことが難しかったため、易しくて使いやすい言葉として「ハングル」を創ったのである。

韓国語の子音は、音を出す口のなかの舌や歯や

声帯などの動きから創られており、母音は、陰陽説の天(・:太陽)地(一:地平線)人(|:人が立っている姿)によって創られた。創られた当時の「ハングル」は、子音17個と母音11個であったが、現在は子音14個(ㄱ ㅋ ㆁ ㆁ ㄷ ㅌ ㄴ ㄹ ㄴ ㄷ ㄹ ㄴ ㄷ ㄹ)が使われている。韓国語は以上のような子音と母音との組み合わせでできている言葉である(例えば:마시다)。

日本では「ハングル語」という言い方をする傾向があるが、これは間違いである。いわゆる、英語を「アルファベット語」、日本語を「仮名語」と言うような言い方になるからである。韓国の言語を表すときには「ハングル」だけか、「韓国語」と使った方が適切である。

日本語と韓国語は、漢字の音読みの発音や語順といった文法がよく似ていて、日本人にとって学びやすい言葉と思われる。

(いよんえ/大学院文学研究科日本文化専攻博士(後期)課程)

編／集／後／記

- *海に山にそして4年生にとっては大事な就職活動、ポスト夏休みにそなえて自分なりに頑張ってください。
- *夏休みの図書館は静かですし比較的涼しいです。漫然と過ごす時間があれば図書館を利用してください。
- *昨年1年間「だより」に連載された“童、夢見し「早春賦」とその時代”を筆者の川崎(図書館係長)が今年度の北海道地区図書館職員研修会で発表いたします。唱歌の歴史の中に明治の息吹を感じさせるシリーズです。昨年度の「だより」を再続ください。

北海学園大学附属図書館報 図書館だより Vol.23 No.1 (通巻157号)

本館 〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 工学部図書室 〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目
☎(011)841-1161 本館内線 270-275・279・129 工学部内線 813・814 印刷所:(株)アイワード